

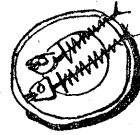
抽き散形花序となり、白い花が七月八月頃咲きますが、この点もモウセンゴケに似ています。

以上大体一通り食虫植物のことを申述べましたが、何れも肉食をし窒素養分や磷酸養分は葉からとることになりますから、特に根から吸収する必要もなく、一般に根の発達が悪いのが特徴になっています。殊に水中や湿地に出来るものが多いために水を吸収することも困難でありませんから、この点からも根が貧弱なつたものと考えられます。只乾地に出来るイシモチソウだけは多少根がよく発達しています。

この外虫を喰わないけれど虫を捕える植物としてはセキチク科のムシトリナデシコとユリ科のネバリノギランなどがあり、何れも花序の基部に粘着物を分泌するものです。そしてそこに無数の昆虫をくっつけているだけで、とかして吸収することはありません。

(仙台尚綱女子学院大学学長)

保育用具の展示会を



波多野完治

わたしたちの大学の幼稚園には、ゾーさん、キリンさん、クマさんがいます。といつても、もちろん、ほんものではありません。ぬいぐるみのおもちやなのですが、ただ、それが大変大きいのです。ゾーさんなどは子ども二人分ぐらいあります。このおもちやを、子どもはおもちやとおもっています。生きた、ほんもの、動物とおもっています。いや、動物以上に、おともだちとおもっています。スキップをするときも、おにごっこをするときも、一緒にいたします。まま

ごとのときは一番大切なお客様です。こういう大きな、しかもおとなしい動物のおともだちがいることで、子どもたちには幼稚園が大変たのしくなりました。

実は、わたしはこういうおもちやの動物やそれと遊ぶ子どもたちをみていて思うのですが、どこの幼稚園にも、こういう「新しい保育用具」があるのではないのでしょうか。

ほかの幼稚園になくて、自分のところだけに偶然できてしまった、新しいおもちやや、あそび道具です。

こういうおもちやや道具を、一年に一べんぐらいずつ、みんなあつめて、展示会をやることはできないものでしょうか。

保育教材業者の新工夫の品も展示してもちって差支ありません。

毎年こういう試みをやると、日本の保育研究も、口ききだけのおしゃべりの段階を脱するのではないか、とおもうのですが、どうでしょうか。